ワークショップ（WS）のご案内

※参加登録が必要です。なお、一部のワークショップ（WS）では空きがあれば当日参加が可能です。

会員先行期間：5 月 10 日（日）12:00 ～ 5 月 16 日（土）24:00　正会員のみ登録ができます
（会員番号の入力が必須となります）
一般登録期間：5 月 17 日（日）12:00 ～6月 20 日（土）24:00　どなたでも登録が可能です

ワークショップ（WS）一覧

8月22日(土) 9:10～11:40

WS 番号	テーマ	リーダー	定員
A-1	親と子への服薬支援　その10～非ステロイド軟膏・新たなアトピー性皮膚炎治療薬について～	上荷　裕広	30
A-2	心理職の事例から考える小児科診療所における子どもの心の支援 (2)	芦谷　将徳	40
A-3	多項目 PCR 検査の活用と問題点について考える	西藤　成雄	25
A-4	小児科外来看護師による発達障害児支援について考える	加賀尾　柚佳	25
A-5	患者に選ばれるかかりつけ医として　～制度を活かすための院内体制～	黒木　良子	20
A-6	「楽しい外来」はチームでつくる！ ～笑顔で働ける環境づくりと人間関係の質を高めるヒント～	児玉　幸代	20
A-7	安心の看護を一緒につくる ～説明・声かけ・環境づくりの工夫～	高來　英代	20
A-8	”非医療職が担う、外来価値の創出　ー小児科外来における先読みという仕事ー”	矢野　耕治	21
拡大 WS	「折り紙の魔法で親子を笑顔にしよう！」	赤平　幸子	50

8月22日(土) 14:00～16:30

WS 番号	テーマ	リーダー	定員
B-1	子どものあしとくつの基本知識～診療や1歳6か月児健診での活用法～	吉村　眞由美	30
B-2	「子どもの姿勢の見かた、考え方」～小児科外来や学校医・園医の「現場」で活かす超・実践編～	千葉　智子	30
B-3	赤ちゃん部屋のお化けを天使に変えよう　…虐待の連鎖を防ぐために…	松原　徹	30
B-4	集まれ！メディカルスタッフ♪　～みんなで語ろう！メディカルスタッフの悩み事～（その3）	藤原　亜希子	30
B-5	「作業療法士のトリセツ～小児科医との連携を目指して～」	植西　祐樹	30
B-6	成長曲線を「診断の武器」にする　ー外来小児科医のための実践的アプローチー	海野　聡子	20
B-7	外来は生き物～イレギュラー対応に揺れない受付医療事務～	平嶋　淳子	20
B-8	自己肯定感を育てるアート体験	村上　綾子	30
B-9	子どもの貧困に気づき支援するために part10	和田　浩	24
B-10	調査研究方法検討会 in 年次集会～日常のちょっとした疑問を調べてみませんか？～	牟田　広実	15

8月23日(日) 9:00～11:30

WS 番号	テーマ	リーダー	定員
C-1	「食べさせる」から「見守る」支援へ：BLW の本質から学ぶ、新しい補完食支援のあり方	江田　明日香	40
C-2	医療と教育の連携	秋山　千枝子	30
C-3	こどものうちに解決しよう小児肥満	林　麻子	30
C-4	子どもの診かたと初期対応～日常を学び非常時に活かす～	鈴木　研史	24
C-5	小児アレルギー疾患への漢方治療	森　蘭子	20
C-6	日本にも社会小児科学を根付かせよう（4）	武内　一	15
C-7	子どもたちをタバコから守るために	牟田　広実	20

8月22日（土）　9:10～11:40

A-1 親と子への服薬支援　その10～非ステロイド軟膏・新たなアトピー性皮膚炎治療薬について～

【リーダー】　上荷　裕広（すずらん調剤薬局）

【サブリーダー】　齋藤　栄二（あおば薬局）、仙敷　義和（信栄調剤薬局）、杉本　香織（シスター薬局）

小児医療において薬物療法は大切な治療手段のひとつであり、患児と保護者そして医療者にとって“くすり”は必要不可欠なものである。小児科外来における薬物療法のアドヒアランスを向上させるために、WSを重ねてきた。服薬を拒む事例のアセスメントやカウンセリング、服薬動機を高めるための指導や支援の手法を学び、さらに個々の薬剤についても協議してきた。昨年は小児への使用が拡大している舌下免疫療法における課題について協議し、各施設での取り組みや指導支援における工夫を共有した。

今回は非ステロイドの新しいアトピー性皮膚炎治療薬として用いられている、デルゴシチニブ軟膏とジファミラスト軟膏について検討したい。従来のステロイド外用塗布剤とは異なる作用機序を有する当薬剤は、アトピー性皮膚炎の新たな選択肢として広く用いられている。しかし汎用されている今、患者指導において課題はないのだろうか？また薬について正しく理解され、納得した治療が行われているのだろうか？さらには頑なにステロイドを拒む、いわゆるステロイド忌避の保護者に対する解決策の一つとなり得るのだろうか？

新しい薬剤であるがゆえに、より適切な情報提供が求められる当薬剤について、参加者と使用方法や指導における課題について協議し、アトピー性皮膚炎治療におけるアドヒアランスを向上させるための支援方法について共有したい。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	30名
1施設あたりの申込制限	1名まで
当日参加	空があれば可
参加費	無料

A-2 心理職の事例から考える小児科診療所における子どもの心の支援（2）

【リーダー】　芦谷　将徳（福岡大学／おおやこどもクリニック）

【サブリーダー】　平野　仁弥（帝塚山大学）、大谷　多加志（京都光華女子大学）

【背景と目的】
近年、小児科診療所では、神経発達症や不登校、養育環境の課題など、子どもの心に関わる多様な相談に対応する機会が増えています。前回のワークショップでは、心理職が関与した事例を通して、小児科診療所における心理支援の意義や多職種連携の重要性を共有しました。一方で、より具体的な支援方法、連携の仕方などの実際の現場での運用方法について学びたいというニーズもありました。そこで本ワークショップでは、心理職の関わり方を事例に基づいて、現場での工夫や迷い、多職種との連携のあり方について検討することを目的とします。
【内容】
小児科診療所における心理支援の現状を共有したうえで、心理職が関与した事例を取り上げ、支援の見立てや関わりの意図、経過の中での変化について検討します。特に、初期段階での関わりや関係づくり、環境調整、他機関との連携といった視点を含めて考えたいと思います。また、うまくいった点に加え、関わりの中での迷いや想定外の出来事にも目を向け、臨床のプロセスを具体的に共有します。参加者同士の意見交換を通して、多様な立場からの視点を持ち寄り、小児科診療所における支援のあり方について理解を深めていきます。プライマリ・ケアの実臨床現場で可能な、かつ、効果的な支援とは何か？について、皆さんと一緒に考えていきます。
【期待される成果】
本ワークショップを通して、小児科診療所における子どもの心の支援の広がりや、早期に関わることの意義について理解が深まることが期待されます。また、心理職の実践に触れることで支援の具体的なイメージを持ち、多職種それぞれの役割を踏まえた関わりを考える契機となることを目指します。さらに、初期段階での適切な関わりがその後の2次障害を防ぐ可能性について共有し、日々の実践に活かせる視点を探ります。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	40名
1施設あたりの申込制限	制限なし
当日参加	空があれば可
参加費	無料

A-3 多項目PCR検査の活用と問題点について考える

【リーダー】　西藤　成雄（西藤小児科こどもの呼吸器・アレルギークリニック）

【サブリーダー】　中村　豊　（ゆたかこどもクリニック）、中野　景司（ぐんぐんキッズクリニック）

多項目PCR検査を実施している医療機関において、同検査を実施し有益であった事例、検査の適応と結果の解釈について悩んだ事例、そしてエラーや有効活用できなかった事例をワークショップの参加者において共有します。

また令和8年の保険診療報酬の改定により、「本検査が必要と判断した医学的根拠を、診療報酬明細書の摘要欄に記載」を求められるようになりましたが、どのようなコメントを書いておられるか、そして改定前後で返戻に変化はあったかなど、保険制度の問題も話し合いたいと思います。特に非常に多く検査されている医療機関もあると聞いております。医療資源を無闇に浪費しないために、どのようなルールが必要かも議論します。

そして多項目PCR検査が普及すれば、感染症に対する外来診療にどういった変化が訪れるか、未来のビジョンも参加者と描きたいと考えております。

なお、多項目PCR検査の導入をご検討中の先生もWSの参加が可能です。また臨床検査技師や実際に機器を操作するコメディカルスタッフも、ぜひとも参加したいということであれば本WSリーダーにご連絡下さい。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	医師、その他（本WSリーダーが認める場合）
定員	25名
1施設あたりの申込制限	1名まで
当日参加	空があれば可
参加費	無料

A-4 小児科外来看護師による発達障害児支援について考える

【リーダー】　加賀尾　柚佳（くまがいこどもクリニック）

【サブリーダー】　手塚　紫穂（野間こどもクリニック / こども発達支援センターポレポレの木）

小児科外来看護師の役割は、診療の補助だけでなく、多職種と連携しながら子どもとその家族の生活を支えることにあります。
発達障害児に対しては、外来での行動観察に基づくアセスメント、特性に応じた環境調整、日常生活での困りごとなどを丁寧に聞き取り、具体的なアドバイスを行うなど、コーディネーターとしての役割も求められます。
発達障害児の家族は、子どもの特性を受け止めていく過程での葛藤や育児不安などを背景に、医療機関を受診することに強い不安を感じている場合も少なくありません。そのため、発達障害児の家族は、医療従事者の子どもの特性への理解や家族の育児不安に対する共感を求めています。発達障害児が抱える困難を家族と共有し協働しながら対応を考えていくことで、発達障害児とその家族への理解が深まり、家族支援につながっていくと思われます。
しかし、外来看護師による発達障害児支援の具体的な方法は十分に共有されているとは言えません。
そこで、本ワークショップでは、家族がそれぞれの状況の中で「子どもに合った関わり方」を見つけ、家族自身の持つ力で主体的に育児に向き合えるようになるための看護支援について考えていければと思います。
外来での支援内容や経験、困っていることなどを参加者同士で共有しながら、発達障害児やその家族への支援をこれから始めようと考えている方や、関わりたいと思っていても支援方法に悩んでいる方にとっての支援の指針を考える機会にしたいと考えています。初めての試みですので、経験のある方はもちろん、経験はないけれど発達支援に興味がある方も大歓迎です。皆さんと共に発達障害児とその家族へのより良い支援の第一歩を考えていければ幸いです。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	看護師、助産師、保健師
定員	25名
1施設あたりの申込制限	2名まで
当日参加	空があれば可
参加費	無料

A-5 患者に選ばれるかかりつけ医として ～制度を活かすための院内体制～

【リーダー】　黒木　良子（医療法人いけざわこどもクリニック）

【サブリーダー】市森　裕章（市森クリニック）

近年、かかりつけ医機能を明確に位置づける流れが進み、制度整理を背景に、地域の小児医療機関においても体制整備がより強く求められるようになってきた。一方、実際の外来現場では、制度上求められる体制や運用プロセスが十分に共有されていないこと、またスタッフの役割分担や患者への情報提供の仕組みが不十分であることから、かかりつけ医登録をどのように進めるべきか判断に迷う施設も少なくない。

当院では、患者に選ばれるかかりつけ医機能の実現を目標に、院内導線の整理、受付・会計での情報共有に加え、看護師による診察前後の説明体制の見直しに取り組んできた。あわせて、夜間やオンラインでの連絡体制についても、現状の課題を整理しながら、今後の運用を見据えた体制整備を段階的に進めている。特に、患者が安心して登録できる環境づくりと、スタッフ全体での制度理解の統一、登録後の継続的なフォロー体制の構築を重視している。

本ワークショップでは、かかりつけ医制度の要点を整理したうえで、かかりつけ医登録を院内で進めていく過程において直面した課題や、その対応として行った院内運用の工夫について、実例を交えて共有する。制度を形式的に満たすことにとどまらず、患者と家族の笑顔につながる医療の質の向上を目指し、実践的な取り組みを考える機会とする。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	医師、看護師、事務、保育士、薬剤師
定員	20 名
1 施設あたりの申込制限	2 名まで
当日参加	不可
参加費	無料

A-6 「楽しい外来」はチームでつくる！ ～笑顔で働ける環境づくりと人間関係の質を高めるヒント～

【リーダー】　児玉　幸代（医療法人いけざわこどもクリニック）

【サブリーダー】今山　愛子（北千里こどもの森クリニック）、
摂津　和子（医療法人いけざわこどもクリニック）

小児科の現場で日々関わるスタッフが「気持ちよく働けること」「安心して育ち合えること」をテーマに、チーム力について一緒に考えていきます。

一日の半分以上を過ごす職場において、チーム力の大切さ、人間関係の構築はとても大切です。多職種が寄り添いながら子供と家族を支える場であり、そのチームがうまく機能するかどうかは、働きやすさや学びやすさにも大きく影響します。

ちょっとした声掛けや情報共有の工夫、相手を尊重する姿勢が、スタッフ同士の安心感や新人の成長意欲を後押しすることも少なくありません。

参加者同士の対話を通して、職場での「あるある場面の共有」「心理的安全性を保つコミュニケーション」「伝わるフィードバックの仕方」「チームで支え合える工夫や実践例」等をテーマに楽しく語り合いながら学び合う時間を目指します。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	看護師、事務、保育士
定員	20 名
1 施設あたりの申込制限	2 名まで
当日参加	不可
参加費	無料

A-7 安心の看護を一緒につくる ～説明・声かけ・環境づくりの工夫～

【リーダー】　高來　英代（医療法人いけざわこどもクリニック）

【サブリーダー】辻　真弓（辻医院）、関　利恵（医療法人いけざわこどもクリニック）、
麻生　麻友美（医療法人いけざわこどもクリニック）

小児外来における処置や予防接種時の看護師の声かけや関わりは、子どもの不安や恐怖心を軽減し、保護者の安心感につながる重要な役割を担っています。日常診療の中では、採血や吸入、鼻吸引など様々な処置が行われており、看護師は子どもの発達段階や状況に応じた関わりを求められます。一方で、その対応は看護師個々の経験に依存する部分も多く、施設間で共有される機会は少ないのが現状です。また、忙しい外来業務の中では、子どもや保護者の不安に寄り添う関わりや工夫について振り返る機会も限られています。

そこで本ワークショップでは、小児外来で実践されている処置や予防接種時の声かけや関わり方、保護者への説明、環境づくりの工夫について参加者同士で共有し、安心につながる看護実践について考えることを目的とします。

当日は、事前に複数の医療機関から処置や予防接種時の関わりを撮影した動画を数点提供していただき、学会ワークショップ内でのみ使用する資料として活用します。動画を視聴した後、その工夫や意図についてグループディスカッションを行い、参加者同士で経験や悩みを共有しながら、小児外来における安心につながる看護の工夫を整理する予定です。

本ワークショップを通して、小児外来における看護実践の可視化と共有を促進し、安心につながる看護のあり方について参加者とともに考察し、持ち帰った学びを明日からの看護実践に活かしていただく機会としたいと考えています。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	看護師
定員	20 名
1 施設あたりの申込制限	2名まで
当日参加	不可
参加費	無料

A-8 “非医療職が担う、外来価値の創出 ―小児科外来における先読みという仕事―”

【リーダー】　矢野　耕治（医療法人いけざわこどもクリニック）

【サブリーダー】須貝　京子（医療法人社団おひさまクリニック）

小児科クリニックの外来には、不安を抱え、勇気を出して来院されるご家族がいます。その不安は、医療行為やマニュアルだけでは十分に支え切れない場面も少なくありません。雨の日の来院、体調不良による突発的な嘔吐、長くなりがちな待ち時間。そして、言葉にできない不安がにじむ保護者の表情や、ふとした動き。私たち受付スタッフに求められるのは、ただ「気づく」ことではなく、その気づきを、助かった実感や安心へとつなぐ行動に変えることです。正解がわからない場面であっても、勇気を出して一歩踏み出す判断が、不安の中にいるご家族の安心につながることがあります。傘立てやタオルの準備、嘔吐時にすぐ使える手作り袋などは、特別サービスではありません。外来の流れを止めず、[気づきを行動に変え、安心につなぐための「先読みの行動」です。]

本ワークショップでは、こうした日常の判断や行動を振り返りながら、他のクリニックでの工夫にも目を向け、非医療職が不安を抱えるご家族をどのように安心へと導けるのか、勇気持った行動と言う視点から、参加者同士で共有します。思いやりを気持ちだけで終わらせず、再現可能な視点と行動として整理することで、小児科外来における受付業務の専門性を改めて考える機会とします。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	事務、保育士、栄養士
定員	21 名
1 施設あたりの申込制限	2 名まで
当日参加	空があれば可
参加費	無料

拡大 WS	「折り紙の魔法で親子を笑顔にしよう！」

【リーダー】　　赤平　幸子（城東こどもクリニック）

【サブリーダー】秦　一裕（ぽよぽよクリニック）

折り紙を使って子どもたちを笑顔にしたい！という取り組みを実践している２つのクリニックから、診察室でもどこでも使えるコミュニケーションツールとしての活用法や待ち時間に楽しむ折り紙、ごほうび折り紙、更には作品展示や折り紙教室で「折り紙って楽しいね！」「こんな発想もあるんだ」など、親子の笑顔を引き出す折り紙の魔法についてご紹介させていただきます。また、簡単に折って渡せる折り紙や、こどもたち達を「お〜っ！」と言わせる折り紙の技を取得し、ぜひ持ち帰っていただきたいと思っております。親子と仲良くなるきっかけをさがしている方、実は折り紙好きの方、いっしょに折り紙を使って外来で出会う親子を笑顔にしましょう！ 小児科外来に折り紙を置いてみませんか？
＊参加される方は当日折り紙をご持参下さい。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	50 名
1 施設あたりの申込制限	２名まで
当日参加	空があれば可
参加費	無料

8月22日（土）　14:00～16:30

B-1　子どものあしとくつの基本知識 ～診療や1歳6か月児健診での活用法～

【リーダー】　吉村　眞由美（早稲田大学）

【サブリーダー】　石川　悟（桜上水ポニーこどもクリニック）、谷村　聡（たにむら小児科）

小児外来における足と靴への関与の実装―短時間診療で可能な評価と多職種連携による指導体制―

　小児外来で、子どもの足や靴について相談を受けることは少なくないと思いますが、十分に対応できているとは言い難いのが現状ではないでしょうか。その見方や伝え方を体系的に学ぶ機会も多くありません。また、限られた診療時間の中で、足や靴について詳しく指導することが難しいと感じる場面もあるのではないでしょうか。

　本ワークショップでは、子どもの足の発育と靴の関係について基本的なポイントを整理したうえで、外来で無理なく実践できる関わり方を共有します。具体的には、「靴のどこを見ればよいか」「どのように靴について伝えればよいか」といった視点から、短時間で行える評価と、保護者へのシンプルな声かけの方法を扱います。さらに、その後の靴に関する具体的な説明や指導を看護師などの医療スタッフに委ねる方法や、あらかじめ整理された資料や手順を活用することで、各施設で一から準備する負担を減らす工夫についても紹介します。加えて、靴の事例や写真をもとに、外来で役立つ観察ポイントや判断の視点を一緒に確認します。

　以上のように、本ワークショップは、足と靴の視点を日常診療に無理なく取り入れ、保護者への適切な助言につなげることを目的としています。例えば実技体験では、足の計測と適正な靴サイズの算出法を学んだり、正しい靴の履き方と靴ひもの調整法、正しい着用状態で軽く身体を動かして、足に合った靴での足感覚と靴感覚の体験をしたりします。当日はスニーカータイプのひも靴での受講を推奨します。

　過去3回（2023～2025年）の内容を踏まえ、今回から医師を対象とした内容に特化し、リニューアルしました。診療で足と靴についての指導を取り入れたい医師の方の参加をお待ちしています。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	医師のみ
定員	30名
1施設あたりの申込制限	制限なし
当日参加	不可
参加費	無料

B-2　「子どもの姿勢の見かた、考え方」～小児科外来や学校医・園医の「現場」で活かす超・実践編～

【リーダー】　千葉　智子（上高田ちば整形外科・小児科）

【サブリーダー】　須貝　雅彦（おひさまクリニック）

　2024年は「子どもの姿勢の崩れや歩き方、気になりませんか？家庭でも学校でもできる運動発達に基づいた運動を実際にしてみましょう」というタイトルで、なぜ子どもの姿勢の崩れが問題なのかを知り、参加者と呼吸や姿勢の確認を行い、体を動かしながら体性感覚を整え、その後の変化を確認しました。

　2025年は小児科医、整形外科医、理学療法士それぞれの視点から考え方や対応のしかた、連携を考え、「適切な姿勢」を参加者が実際に体験しました。

　今回2026年は、その集大成として、子どもの姿勢評価ついて、より専門的に、具体的で実践的なワークショップを開催しようと考えています。

　保育園や幼稚園の園医、小中学校の校医として活動する小児科医やコメディカルの方々にも広く知ってもらいたい内容を盛り込む予定です。

　本WSで子どもの姿勢で、見るべきポイントの整理を実技中心に行います。

　いわゆる夕方に訴える「足が疲れた」、「同じ姿勢を保っていられない」などの訴えや、「お口ぽかん姿勢」など、「姿勢」と動作、口腔機能などの様々な要素との関係について、私たちが考えている事を参加者と共有します。

　そのうえで、子どもの姿勢を見るうえで確認すべき評価のポイントと考え方を参加者同士で実技を通して評価と確認、考えていく機会を多く作る予定です。

　また、不良姿勢が及ぼす各部位への影響や動作への影響を考え、子どもの姿勢の評価と現状の把握を行えるように、実技やディスカッションを行い、参加者がこれから診ていく子どもたちが抱える課題を少しでも解決できるヒントになればと思っています。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	子どもの姿勢や運動に現場で実際に関わっている職種 （会員先行期間は医師、看護師、理学療法士のみ。 一般登録期間以降はすべての職種）
定員	30名
1施設あたりの申込制限	2名まで
当日参加	空きがあれば可
参加費	500円

B-3　赤ちゃん部屋のお化けを天使に変えよう …虐待の連鎖を防ぐために…

【リーダー】　松原　徹（城東こどもクリニック）

【サブリーダー】　澤田　敬（NPO法人カンガルーの会）、安齋　由紀子（城東こどもクリニック）、赤平　幸子（城東こどもクリニック）

　児童精神科医セルマ・フライバーグは「全ての赤ちゃん部屋にはお化けがいる」と言いました。被虐待などの辛い過去のある母親が、自分の子と赤ちゃん部屋で二人きりになったとき、自分の辛い過去が蘇り、言うも言われぬ不安感や、自分も同じように子どもを虐待してしまうのではないかという恐怖感が生まれ、それをお化けと呼んだのです。全ての赤ちゃん部屋にお化けがいるというのは、虐待に限らず、些細な心の傷付きでさえ、それがお化けになって蘇ることがあるということなのでしょう。一方、アリシア・リーバマンの言葉に"赤ちゃん部屋の天使"があります。リーバマンはそんなお母さんでも我が子は可愛く、子どもの幸せを願う心がある、それを"赤ちゃん部屋の天使"と呼びました。

　このWSでは赤ちゃん部屋のお化け、そして何故、虐待の連鎖が起きるかを学び、お化けを天使に変えるにはどうしたら良いのかと言う視点で事例検討し、参加者各々が虐待予防の具体的な方法を考え、虐待予防についてディスカッションしたいと思います。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	30名
1施設あたりの申込制限	2名
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料

B-4　集まれ！メディカルスタッフ♪　～みんなで語ろう！メディカルスタッフの悩み事～（その3）

【リーダー】　藤原　亜希子（ぽよぽよクリニック）

【サブリーダー】　松田　邦彦（ぐんぐんキッズクリニック）、加藤　篤子（どんぐりこどもクリニック）、高橋　美智子（おひさまクリニック）、吉田　美佐（親とこどものクリニックohana）、笈西　雅代（はやしま小児科）、秦　一裕（ぽよぽよクリニック）

　日々の診療の中で、「こんな時はどうすればいいの」「他の施設ではどう対応しているんだろう」と悩むことはありませんか？そんな悩みを共有し、解決へのヒントを見つけることを目的としたワークショップです。

　参加者同士で気軽に話し合い、経験や工夫を持ち寄ることで、業務の質を向上させ、実践的な知識を得られる場を提供します。また、課題に対する新たな視点を見つける事も期待されます。

　前回のワークショップでは、「悩みの解決策を一緒に考えてもらえた。今後の業務に役立てたい。」「他のクリニックの悩みや取り組みを知ることで、業務に活かせ、悩んでいるのは自分ひとりじゃないんだと、心強かった」とのお声をいただきました。

　話し合いがスムーズに進むよう私たちが全力でサポートし、参加者の皆様とともに有意義な時間を作りたいと考えています。参加者全員でこのワークショップを育てていきましょう！

【到達目標】
- 本ワークショップでヒントや気づきが生まれ、明日から使えるアイデアを持ち帰っていただく
- 実際、自院でトライして得るものがあったのか、追跡評価する
- 年次集会における、メディカルスタッフのためのワークショップの意義を探る

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	看護師、看護助手、事務、保育士
定員	30名
1施設あたりの申込制限	1名まで
当日参加	空があれば可
参加費	無料

B-5 「作業療法士のトリセツ～小児科医との連携を目指して～」

【リーダー】　植西　祐樹（株式会社ピースプラント）

【サブリーダー】久保田　恵巳（くぼたこどもクリニック）

【はじめに】外来診療の現場で、「診断はついたが、その後の具体的な生活支援をどう提案すべきか」と悩むことはありませんか？ 発達の遅れや不器用さ、集団適応の難しさ、極端な偏食。これらは医療的な診断名だけでは語りきれない子どもたちの「生活の困りごと」です。本ワークショップでは、子どもたちの「活動」と「参加」を支える専門職である作業療法士（OT）を、小児科医がいかに活用し、連携していくべきか、その「トリセツ」を提示します。
【子どもを取り巻く現状と OT の視点】発達に課題を持つ子どもたちは、あらゆる場面で「うまくいかない経験」を積み重ねています。大人がその行動の背景を理解できず、単なる努力不足やわがままと捉えてしまうと、子どもたちの自己肯定感は低下し、二次的な問題へとつながりかねません。 OT は、ICF（国際生活機能分類）モデルを用い、心身機能や環境要因、個人因子を多角的に分析します。「なぜ着替えが苦手なのか」「なぜ教室で座っていられないのか」といった疑問に対し、作業分析を通じて焦点を明確にし、子どもが「できた！」と感じられる具体的な関わり方を導き出します。
【小児科診療と OT の協働】小児科医に OT の視点を理解していただき、「このケースは OT の介入が有効だ」と思っていただけると、保護者への説明や地域支援機関との連携をスムーズにする強力な武器になると思います。
【本ワークショップの構成】本企画では、小児科診療に直結する OT の視点や、明日から使えるアセスメントのヒントを紹介します。具体的な事例検討を通じ、医師と OT がどのように情報共有し、役割を分担することで、子どもと家族を包括的に支えられるのかを深掘りします。小児科と作業療法の協働は、地域で子どもたちの育ちを支えるための第一歩です。子どもの「困った」を「希望」に変えるための OT 活用術を、ぜひ本ワークショップで見つけてください。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	30 名
1 施設あたりの申込制限	4 名まで
当日参加	空があれば可
参加費	無料

B-6 成長曲線を「診断の武器」にする —外来小児科医のための実践的アプローチ—

【リーダー】　海野　聡子（久留米大学病院）

【サブリーダー】海野　光昭（聖マリア病院新生児科）、
石本　隆浩（久留米大学病院）

成長曲線は小児診療における基本的で身近な評価ツールであり、外来診療で継続して記録される成長の軌跡は、子ども一人ひとりの変化を丁寧に捉える手がかりとなる。本ワークショップでは、成長曲線を日常診療で無理なく活かせる視点を共有する。演者は大学病院小児科内分泌専門外来に従事しており、地域の先生方からご紹介いただく成長障害、肥満、思春期異常などの症例を日常的に診療している。紹介時に添えられた成長曲線は多くの気づきを得るツールであり、地域の先生方の日々の診療が専門医療へとつながる大切なバトンであり出発点であることを実感している。本ワークショップでは、身長体重 SD の確認、成長速度の変化、身長体重の曲線バランス、思春期発来との時系列的関係など、外来で無理なく確認できるポイントを整理し、成長曲線から読み取れる情報をわかりやすく共有する。前半は症例提示を通して評価の視点を学び、後半は参加型演習として実際の症例データを用いた作図と検討を行う。所見の気づきから対応方針の考え方までを体験し、短時間で実践しやすい方法を身につける構成とした。

成長曲線は、日常診療の中で取り入れられる身近な実践である。このワークショップを通じて、明日からの外来診療の中に成長曲線活用に取り組んでいければ幸いである。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	20 名
1 施設あたりの申込制限	制限なし
当日参加	空があれば可
参加費	無料

B-7 外来は生き物～イレギュラー対応に揺れない受付医療事務～

【リーダー】　平嶋　淳子（医療法人いけざわこどもクリニック）

【サブリーダー】辻　真弓(辻医院)、竹岡　奈奈(医療法人いけざわこどもクリニック)、
楢木野　寿都（医療法人いけざわこどもクリニック）

小児科を受診される患者様やそのご家族は、さまざまな背景の中 来院されることと思います。

私達受付スタッフはその最初の窓口として安心につながる対応を日々心掛けていますが、一方で日々さまざまなイレギュラーな判断に迫られています。

例えば

○予約枠がすべて埋まっている中、直接ご来院され診察ご希望の患者様を受け入れるかお断りするか

○兄弟も一緒に診察ご希望されるケースなど

1人でも多くの方の診察をしてあげたいと思う気持ちはあっても寄り添いすぎると逆に公平性・医師・スタッフの安全性が守れなくなることもあります。
またあらゆる場面で何を優先しなければならないのか？という臨機応変な優先順位の判断力も重要です。

だからこそ、同じ思いを抱えた受付・医療事務スタッフの方にご参加いただき、さまざまな視点から患者様だけでなくスタッフの安全とチーム医療を守るための共通の判断軸を考える機会にしたいと考えています。

要望にお応えできない時こそ、相手を思いやり、信頼を損ねないお断りの仕方や苦情に発展させず次につなげる説明について意見交換し、現場で活かせる改善策を見つけていただければと思います。

そして、イレギュラーな場面においてもぶれない対応ができる、より良い患者様対応へとつなげていきましょう。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	受付・医療事務
定員	20 名
1 施設あたりの申込制限	2 名まで
当日参加	不可
参加費	無料

B-8 自己肯定感を育てるアート体験

【リーダー】　村上　綾子（あきつこどもクリニック）

【サブリーダー】仁科　範子（仁科医院）

本ワークショップは、子どもがアートを体験したときにどのような心理的変化が起こるのかを、参加者自身が身体と心で実感することを目的としています。安心して表現できる環境に身を置き、五感を使って手を動かすことで、子どもの自己肯定感や情緒の安定がどのように育まれるのかを体験的に理解します。

絵の技術や経験は問いません。「絵が苦手」「卒業以来描いていない」という方こそ歓迎です。評価されない場で正解に縛られずに手を動かし始めると、緊張が少しずつほどけ、感じたまま表現する流れに入っていきます。これは、子どもがアートに向かう際の心の動きとよく似ています。

制作では、対象をよく見て、触れ、匂いを確かめ、その印象を自由に色や形へ置き換えます。「うまく描こう」という意識が薄れると、夢中で手を動かす没入感が訪れ、心が落ち着いてくるのを感じます。参加者がこの体験を味わうことで、子どもがアートに取り組む中でどのように心を整え、安心感を得ていくのかを自然に理解できます。

作品の共有では、出来栄えではなく「どんな気持ちで作ったか」というプロセスを大切にします。他者の作品の魅力に気づき、自分の作品にも肯定的な視点が向けられることで、“これでいいんだ”という感覚が生まれます。これは臨床美術が子どもにもたらす最も大きな効果のひとつであり、自己肯定感の芽生えそのものです。

本ワークショップを通して、アートがもつ癒しや安心感、子どもの心の動きへの理解、そして外来場面で生かせる声かけや関係づくりのヒントを持ち帰っていただければ幸いです。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	30 名
1 施設あたりの申込制限	1 名
当日参加	空きがあれば可
参加費	500 円

B-9　子どもの貧困に気づき支援するために part10

【リーダー】　和田　浩（健和会病院）

【サブリーダー】武内　一（佛教大学社会福祉学部）

2010 年以来ほぼ毎年「子どもの貧困」に関するワークショップを開催してきました。小児医療に関わる多くの方が、「子どもの貧困」に関心を持ちながら「実際にそういう親子を知らない」「もし気づいてもどうしたらいいかわからない」と思っています。この WS はそうした「貧困問題初心者」を主な対象として、レクチュアや事例検討・グループワークを行います。そうやって考え話し合ってみると、きっと「そう言われてみれば、あの親子は貧困を抱えているのかも」と思い当たる事例があると思います。また、支援の取り組みもいろいろと行われており、そうした経験を聞くことで「自分でもこんなことならできそう」と思えるようになると思います。お気軽にご参加ください。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	24 名
1 施設あたりの申込制限	制限なし
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料

B-10　調査研究方法検討会 in 年次集会 ～日常のちょっとした疑問を調べてみませんか？～

【リーダー】　牟田　広実（いいづかこども診療所）

【サブリーダー】杉村　徹（杉村こどもクリニック）、
中村　豊（ゆたかこどもクリニック）

リサーチ委員会では、年３回、調査研究方法検討会を開催し、会員の研究を支援しています。現地と Zoom のハイブリッド開催としており、参加しやすい形式ではありますが、これまで参加されたことがない方には、やや敷居が高く感じられるかもしれません。

今回、これまで参加したことがない方にも気軽に参加していただけるよう、調査研究方法検討会を体験・見学していただく場を設けました。

実際に演題を提出し、検討を希望される方には、通常の検討会よりも時間を長めに設定し、内容について丁寧に検討していきます。

「どんなことをしているのかな？」「ちょっとのぞいてみようかな？」と思われる方は、見学のみのご参加でも結構です。

少しでも研究に関心のある方のご参加を、心よりお待ちしております。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	15 名
1 施設あたりの申込制限	制限なし
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料

8月23日（日）　9:00 ～ 11:30

C-1　「食べさせる」から「見守る」支援へ：BLW の本質から学ぶ、新しい補完食支援のあり方

【リーダー】　江田　明日香（かるがも藤沢クリニック）

【サブリーダー】　武知　紹美（とまこまいこどもクリニック）、
天満　麻美（かるがも藤沢クリニック）、
引地　千里（のえる小児科）、山田　翔（たけのやま歯科）

2008 年にイギリスで提唱された Baby-Led Weaning”赤ちゃん主導の離乳”は、単なる手づかみ食べではなく、赤ちゃんが離乳食を食べること全てを主導する食事方法です。家族は、自分たちの食事から赤ちゃんに安全で食べやすい食事を取り分け、赤ちゃんはそれを自分で食べます。何を食べるか、どのような順番で食べるか、どうやって食べるか、いつ食事を終わらせるか、全て赤ちゃんが決めます。スプーンでおかゆを与える従来通りの離乳方法とは、本質的に大きな違いがあり、支援者には「食べさせる」から「子どもが自律的に食べるのを見守る」という発想への転換が求められます。Baby-Led Weaning は今や世界中に広まり、日本でも認知度が高くなってきているため、支援者もさらなるアップデートが必要であると考えます。

私たちは 2022 年から当年次集会において、「Baby-Led Weaning（以下 BLW）」に関するワークショップを行って参りました。2025 年は発展編として、参加者が持ち寄った事例について具体的支援を検討しました。今回は初心に帰り、再び BLW の本質を理解するためのワークショップを開催します。このワークショップへの参加経験が、みなさんの補完食支援の一助になれば幸いです。貴重な WS の時間を最大限に活かすため、動画の視聴を必須の事前準備とさせていただきます。動画は、8 月上旬にライブかオンデマンドで視聴していただきます。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	40 名
1 施設あたりの申込制限	2 名まで
当日参加	不可
参加費	500 円

C-2　医療と教育の連携

【リーダー】　秋山　千枝子（あきやま子どもクリニック）

【サブリーダー】　本田　真美（あのねコドモクリニック）、
松野　泰一（あきやま子どもクリニック）

第 34 回当学会ワークショップ「医療と教育の連携」を開催し、本年度も引き続き本テーマを企画いたしました。現在、日本における不登校児童生徒数は 35 万人を超え、発達障害のある児童生徒も増加傾向にあります。さらに、いじめ、家庭環境の変化、ヤングケアラーの問題など、子どもを取り巻く状況は年々複雑化しています。こうした背景のもと、子どもの示す心身の不調の背後には、学校生活や社会的環境の影響が重なり合っていることが少なくありません。

課題の初期段階では、まず身近なかかりつけ医や小児科診療所に相談が寄せられることが多く、医療が最初の窓口となる場面が増えています。腹痛や頭痛、不眠といった身体症状の陰に、学習の困難や対人関係の葛藤が隠れていることもあります。その際、医療が診断や治療のみで完結するのではなく、教育との連携を意識した対応を行うことが、子どもの孤立を防ぎ、支援を早期につなぐうえで極めて重要であると、日々の臨床の中で実感しております。

前回のワークショップでは、当院における「医療教育コーディネーター」という新たな役割をご紹介いたしました。医師の診察前の予診、診察への陪席、保護者への学校環境調整の助言、さらには学校訪問による情報共有などを通して、医療と教育の間に生じがちな情報や視点の隔たりを埋める取り組みです。本年度は、その実践の成果と課題を報告するとともに、各地域での多様な実践例を共有し、制度や立場の違いを越えてどのように協働体制を構築していくかを検討したいと考えております。本ワークショップが、子ども一人ひとりの育ちを支えるための具体的な連携の在り方を共に模索する場となることを願っております。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	30 名
1 施設あたりの申込制限	制限なし
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料

C-3　こどものうちに解決しよう小児肥満

【リーダー】　林　麻子（北海道医療大学病院）

【サブリーダー】　新田　麻美（北海道医療大学病院）、上河邉　力（北海道医療大学）、
上村　さおり（北海道医療大学病院）

【はじめに】
日本の小中学生の約 1 割にのぼるとされる小児肥満は、将来の生活習慣病や死亡リスクに直結するだけでなく、自己肯定感の低下や不登校など心身両面への深刻な影響を及ぼす。診療の対象は患児のみならず、生活基盤を共有する保護者も含まれる。本ワークショップでは、患者と家族全体を地域社会の中でどう支えていくか、その実践的スキームを提示する。

【第一部：講演】
「ライフコースで捉える小児肥満：肥満の起源とリスク評価」
演者：北海道大学 環境健康科学研究教育センター 山口健史先生
DoHAD は、胎児期から乳幼児期の環境がエピゲノム変化などを介して将来の健康に影響するという概念である。肥満領域では、胎内環境が食欲調節や脂肪蓄積、インスリン感受性に作用し、肥満リスクの基盤を形成する「fetal origins of obesity」が注目される。本講演では、小児肥満をライフコースの視点から概観し、エコチル調査・北海道スタディの出生コホート知見を紹介する。さらに、小児期の血圧・脂質・糖代謝評価の重要性など最新トピックスを述べる。

【第二部：臨床の実践】
北海道医療大学病院の小児肥満外来で実践している診療を紹介する。各職種の専門性を活かし、子どもと保護者への関わり方、生活習慣改善を促す具体的アプローチ、多職種連携の実際など臨床現場のエッセンスを共有する。

【第三部：症例検討を通じた多職種・地域連携の深化】
提示する症例に基づき、参加者間での意見交換を行う。学校や地域資源との連携を視野に入れ、保護者の心理に配慮し、非難的でないアプローチで行動変容を導く戦略を議論する。

【参加者の到達目標】
①小児肥満を成長発達、心理、家庭・生活環境を含めた多面的な課題として捉え、親子を包括的に評価できる。
②親子の心理背景を洞察し、自己効力感を高める支援技法を習得する。
③多職種・地域社会と連携した持続可能な支援計画を立案できる。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	30 名
1 施設あたりの申込制限	制限なし
当日参加	可
参加費	無料

C-4　子どもの診かたと初期対応 ～日常を学び非常時に活かす～

【リーダー】　鈴木　研史（竜美ヶ丘小児科）

【サブリーダー】　種市　尋宙（富山大学附属病院）、加久　翔太朗（ClinicWIZ）、
藤野　正之（藤田医科大学）

クリニックや急病診療所や病院の外来では、多くの軽症者をみながら、見逃してほしくない子どもの初期症状やサインに気づき、迅速に対応して重症化を防ぐ診かたを身に付けることの重要性を知っていただくことを目標とします。医師と看護師が一緒に学び、診断や判断の背景となる考え方を共有し共通言語で対応するために、日常診療から非日常の緊急対応まで役立つ力を一緒に学びます。一緒に働く医師と看護師が、救急という非日常ではなく日常で継続的に使って欲しい視点から考えや対応をお互いに理解し連携することで看護にも役立ち、きっと JPLS や PEARS にも参加したくなります。初期評価と対応の共通のアルゴリズムを使いながら緊急事態への対応も、講義とシミュレーションを通じて一緒に興味と自信を高めていきましょう。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	医師、看護師
定員	24 名
1 施設あたりの申込制限	3 名まで
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料

C-5 小児アレルギー疾患への漢方治療

【リーダー】　森　蘭子（森こどもクリニック）

【サブリーダー】坂崎　弘美（さかざきこどもクリニック）、木許　泉（広瀬クリニック）

我々は小児科プライマリケアにおいて漢方治療を広めることを目的にワークショップ（WS）を開催してきた。これまでのテーマは風邪（抗菌薬適正使用）、ウイルス性呼吸器感染症、発達障害、家族療法、睡眠障害、心の問題、起立性調節障害などである。経験と成果を踏まえ、第 32 回年次集会では服用性を含む漢方薬の基礎知識と、心の問題に対する漢方処方について発表した。

今年はアレルギー疾患を取り上げる。ガイドラインによる標準治療にプラスアルファとして症状緩和、治療効果の強化、アウトグローの促進を念頭に、患児の QOL 向上と寛解誘導を目指す。参加者は医師に限定し、事前学習でアレルギー疾患に用いる漢方薬の基礎を確認する。当日は模擬症例を提示し、少人数グループ討議と全体討議を交えて進行する。目標は、喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎の症例に適切な漢方治療を実施できるようになることである。

毎年、漢方に興味を持つ医師が全国から参加し、熱心なディスカッションが行われている。漢方の初心者からベテランまで、漢方に興味を持つ医師の参加をお待ちしております。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	医師のみ
定員	20 名
1 施設あたりの申込制限	2 名まで
当日参加	不可
参加費	無料

C-6 日本にも社会小児科学を根付かせよう（4）

【リーダー】　武内　一（佛教大学社会福祉学部）

【サブリーダー】三品　浩基（神戸市こども家庭局）

４回目になる本 WS ですが、社会小児科学の視点を参加者の皆さんと共有し、日本に社会小児科学を根付かせるための工夫を話し合います。

WS の進め方ですが、全体で社会小児科学の基礎知識を確認の後、２チームに分かれてグループワークを行い、社会経済的な困難を抱える子どもの家庭事情をいくつか共有し、問題の理解と解決への方策を、お互いにアイデアを出し合って探っていけたらと思います。

この WS に参加して、今までの自分自身が行ってきたことは間違っていなかったと確認でき、新たな診療への工夫に繋がればと思っています。

遠隔でサンフランシスコから、小児科総合診療医であるジョン高山さんに、参加者へのアドバイスをいただきます。また、ジョンさんの元、国立成育医療センター総合診療部でレジデントをされ、現在神戸市こども家庭局の三品浩基さんにサブリーダーをお願いしました。

ジョンさん三品さんから学べる、素敵な機会になればと思っています。

参加者総勢 15 名での運営を予定しています。多職種参加型です。医師以外の皆さまのご参加、ぜひお願いいたします。様々な職種からのご参加で、幅の広い実りの多い議論になればと期待しています。

もしよろしければ、ご当地のおやつをお持ちください。全国各地のおやつをいただきながら、楽しく進めていきたいと思います。参加費は必要ありません。

開催形式	問題解決型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	15 名
1 施設あたりの申込制限	制限なし
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料

C-7 子どもたちをタバコから守るために

【リーダー】　牟田　広実（いいづかこども診療所）

【サブリーダー】野田　隆（のだ小児科医院）、伊藤　裕子（伊藤内科医院）

タバコ問題検討会では、子どもたちを喫煙の害から守る活動を広げることを目的に、2004 年の第 14 回年次集会以降、継続的に WS を開催してきました。それから約 20 年が経過し、タバコを取り巻く環境は大きく変化してきました。2020 年に施行された改正健康増進法により、飲食店などの屋内は原則禁煙となりました。一方、2013 年より発売された加熱式タバコは、近年急速にシェアを拡大しており、現在では販売数量ベースで約半分を占めているといわれています。

今回は、①加熱式タバコを含むタバコ全般とその有害性に関する基礎知識のレクチャー、②小児科外来において効果的に禁煙支援の声かけをどのように行うかを実践的に学ぶワーク、の 2 部構成で開催します。

禁煙支援が初めてという方から、さらにスキルをブラッシュアップしたいという方まで、幅広いご参加をお待ちしております。

開催形式	研修型
参加可能な職種 / その他の条件	制限なし
定員	20 名
1 施設あたりの申込制限	制限なし
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料